

教育フォーラム「不登校、発達障害をもつ子どもたちも大事にされる教育へ」レジメ

現在の教育システムの問題とこれになじめない子どもたちの状況

野村 俊幸 函館 登校拒否と教育を考える親の会「アカシヤ会」事務局
道南ひきこもり家族交流会事務局

(2008年2月2日、札幌エルプラザ)

1 わが家の不登校体験から

長女の場合～追いつめる

- ・中学2年生で不登校に…親は必死に登校させようとするが…長女はボロボロの状態に
- ・高校進学へのこだわりを捨てることから…せまられた親の「意識改革」

次女の場合～受けとめる

- ・小学4年生で不登校に…まず家でゆっくり休む…中学校は2ヶ月通学ただけで終える
- ・登校の強制は一切しない…概ね元気に成長…学校が合わなかった？

2 「学校になじめない」子どもたちについて

- 同年代の子どもたちと波長が合わない～「同調圧力」がとても辛い→孤立、いじめ
- 過剰な気配り～自分よりも周りの意見や気持ちを重視、先回りした配慮→精神的疲労・緊張
- 率直な自己主張、繊細な感情表出～周囲から「浮く」(「帰国子女」のよう)→孤立、いじめ
- 特定分野への関心の集中～周囲と話がかみ合わない→孤立、いじめ、学習の遅れ
- 学習障害や発達障害、精神疾患が背景にある場合も→いじめ、学習の遅れ、自傷行為
- 家庭の「養育力」に問題がある場合～重度化すればネグレクトにも→学習の遅れ、意欲の低下

3 本人 家族の不安にどう対応するか？

勉強が遅れる！ 高校進学はどうなる？

- そんなに「大問題」か？「〇歳で〇年生」というのは「学校制度上の決め事」に過ぎない。
- ・勉強の遅れは本人がその気になれば後で取り返すこともできる。
- ・いろんな「進路」があるので、**高校進学を絶対視しない**ことで視野が広がる。

友だちができない、集団生活の経験不足～「社会性 適応力」が身につかない！

- 本当に学校でしか身につかないのか？ まずは家庭を安心できる居場所に！
- ・エネルギーを蓄えてからいろんな社会体験を試みる(学校に限定しない)。
- ・「生身の人間」が苦手な人にはインターネットが貴重なツールになる場合が多い。

「学校という＜時間と空間＞が苦手な子もいる」ことを理解してほしい。

「情報不足」が不安を増幅する→「正確で多面的な情報提供」も相談・支援の大きな役割

4 「学校教育」しか道はないのか？～求められる多様な選択肢

「学校教育のあり方」を問う不登校現象

- ・不登校の人数は実態を表しているか？～数字のマジックも→削減の「数値目標化」の危険性
- ・「なぜ子どもに拒否されるのか」→「お客さんが逃げている」という視点も必要では？
- ・「子どもの権利条約」は生かされているか？～「保護の対象」から「権利主体」へ

(国連子どもの権利委員会最終所見 日本、1998年6月5日)

高度に競争的な教育制度によるストレスにさらされ、その結果として余暇、身体的活動及び休息を欠くにいたっているため、子どもが発達障害におちいっていることを懸念する。さらに、不登校・登校拒否の数が看過できない数に上っていることを懸念する。

□「学校教育を相対化」するという視点が必要では？

- ・「学校も子育てネットワークのひとつ」という発想を～学校をもっと身軽にする。
- ・学校教育における情報公開、説明責任、市民参加、苦情処理システムの整備を図る。
- ・「スクールソーシャルワーカー」配置の動き～有効に生かす手立てを。
- ・「教育家族」「学校化社会」の行き詰まり～家庭や社会も問われている。
- ・「道草」や「回り道」を大切に作る柔軟な社会システムが必要になっている。

□ 重要さを増す「オルタナティブ教育」

- ・教育に係る公的財政支出は「全ての子どもたち」を対象とするべきではないのか？
- ・「教育を受ける権利、多様な学びの場」の保障
→フリースペース・フリースクール、ホームエデュケーションなどの役割と重要性

【補足～相談 支援の留意事項】

□「ケースワーク」の方法論を生かす。(バイステックの7原則など)

- ・クライアントを個人としてとらえる ・受けとめる ・価値観を押し付けない
- ・相手の感情表現を大切にする ・こちらの感情や態度を自覚する ・自己決定の尊重

□「エンパワメント」を大切に～「問題をかかえた人自身に問題解決の力がある」という視点を持つ。

□「誰のための援助か」を常に検証する。

- ・子どもが元気になることを目的に。学校復帰は「結果のひとつ」であり「目的」ではない。
- ・「不登校も選択肢のひとつ」という柔軟な発想を。
- ・「不登校＝問題行動」ではなく、個々の問題行動は「二次的行動」という理解を。

□ 焦らない。周囲のスケジュールどおりにはいかず、時間がかかることを理解する。

□「自助(当事者)グループ」の意義を学び、活用を図る。

□「引きこもり」と不登校

- ・増えてきた高校中退や大学中退の相談～小中学校に不登校や不登校気味だった人が多い傾向
不登校は引きこもりの原因か？～「十分に不登校できなかった」「安心して不登校できなかった」
ことで引きこもりに追い込まれる場合もあることに留意を！

□「いじめ」問題と不登校

- 「いじめは人権侵害」という視点をしっかり持つ～「子どもを守ること」を第一に！
- ・登校は「安全確認 安心確保」の後でよい。まずは十分に休息してエネルギーの回復を。

□「発達障害」と不登校

- ・勉強の遅れや人間関係のつまづきが不登校のきっかけになる場合もある。
- ・「誰のため、何のための診断か」を問い直す～診断は子ども理解の手段であり目的ではない。
- ・「生活の枠組み」の検証を～障害は当事者と周囲の「関係性」も課題という視点が必要に。
- ・「ケアマネジメント」の方法論を生かす。